

自己成長力への働きかけに関する研究*

速水敏彦 西田 保¹⁾ 坂柳恒夫²⁾

問 題

少子化が進む中で青少年に対する過保護が問題にされている。一方では、めまぐるしい社会の変化に対処するために自分で自分を教育する必要性が叫ばれている。そこで、全人的な発達を青少年自らが模索していく姿勢を学校や家庭で育成することが期待される。

速水・西田・坂柳(1994)では能力、性格、体力3領域の青少年の自己成長力検査を作成し、その発達の变化を検討した。その結果、小学校から中学校にかけて自己成長力は順調に成長していく傾向が窺われるが、高校になって減退、または停滞するという実態が明らかにされた。また、速水・西田・坂柳(1995)では比較文化的研究も実施し、日本の青少年の自己成長力が中国やオーストラリアの青少年のそれに比べてやや弱いものであることを指摘した。

ところで、この自己成長力はどのようにして形成されるのであろうか。様々な要因が考えられようが、周囲の重要な人たちからの働きかけ(支援)が大きいように思われる。ただし、実際の働きかけというよりも青少年が認知した働きかけが現実の自己成長力の育成により強く関係すると予想されるので今回はそれを問題にする。

そこで、働きかけの内容に関して次のように概念化した。まず、領域であるがこれは自己成長力の能力、性格、体力の3領域に対応させた。次に働きかけには情報的支援と情緒的支援の2種類を想定した。前者は主に言語的な自己成長の育成に役立つ情報を与えるかたちでの支援であり、後者は自己成長力の基礎を支える精神的、感情的支援である。前者のような支援がないと、青少年は具体的にどのようにしたら自己成長力を身につけるこ

とができるかの手がかりを得ることができない。他方、後者のような支援がないと、たとえ前者のような支援があっても自己を成長させる努力を持続させることができないように思われる。

さらに、重要な他者、働きかけの担い手としてはここでは、教師と両親(父親と母親)に絞って考えることにした。他に友人や兄弟等も考えられるがここでは扱わない。どの人からの働きかけが影響するかは自己成長の領域や種類によって異なると予想される。

本研究では以下の2つが主なる目的である。第1に、自己成長力への働きかけの認知を測定する尺度を構成し、どのような働きかけがどの程度認知されているかを検討する。すなわち、ここでは中学生を対象にするが、働きかけの認知には学年差、性差がみられるか、働きかけは領域、種類、担い手によってどのような相違がみられるのかを明らかにする。

第2にその働きかけと自己成長力がいかなる関係にあるかを明らかにする。働きかけの強さが直接、自己成長力に反映するものかどうか、働きかけの種類や担い手の相違によってその影響力にどのような違いがみられるかを検討する。

方 法

1. 調査対象者

対象者は、愛知県豊橋市内の中学1年生から3年生までの男子263名、女子229名である。学年および男女の比率は、ほぼ均等であった。

2. 調査内容および方法

(1) 自己成長力

著者らが作成した自己成長力検査を用いた。この検査は、青少年の自己成長力を能力・性格・体力の3領域にわけて測定するものであり、それぞれ24項目の質問項目で構成されている。また、各領域には、関心・意欲・遂行力を測定する8項目が用意されている。各項目に対する応答は、「よくあてはまる(4点)」から「ほとんどあ

1) 名古屋大学総合保健体育科学センター

2) 愛知教育大学

* 本研究は日本生命財団の研究助成による「青少年の成長に関与する日本の教育力の学際的総合的研究」(総括責任者 祖父江孝男)の一部である

自己成長への働きかけに関する研究

表1 能力自己成長力への働きかけ得点の平均値（上段）および標準偏差値（下段）

	男 子						女 子					
	教 師		父 親		母 親		教 師		父 親		母 親	
	情報	情緒	情報	情緒	情報	情緒	情報	情緒	情報	情緒	情報	情緒
中学1年生	27.11	26.40	24.05	23.94	25.34	26.22	25.00	24.49	21.08	22.25	26.00	26.31
	6.83	7.61	7.35	8.10	7.38	8.10	8.44	9.48	8.23	8.94	7.94	8.99
中学2年生	22.55	19.88	21.12	20.71	22.28	21.90	24.03	21.81	19.83	20.04	23.77	24.54
	7.18	7.62	7.45	7.70	7.27	7.17	7.59	7.71	7.15	7.33	6.93	8.30
中学3年生	25.87	22.81	21.35	21.77	23.22	23.36	25.46	23.93	20.17	20.81	23.40	24.81
	7.95	9.00	8.09	8.28	7.49	8.65	8.56	8.89	8.36	8.36	8.66	9.08

てはまらない（1点）」までの4段階であった（具体的な質問項目などは、速水ら、1994を参照）。

(2) 自己成長力への働きかけ

ここでは、中学生が認知する教師および両親の働きかけについて調査した。実施された調査には、自己成長力の3領域（能力・性格・体力）ごとに、情動的支援尺度および情緒的支援尺度が設けられている（付表1参照）。

前者は、自己成長力を育てるために教師や親がどのような情報を与えているのかを調べる尺度であり、重要性、方法、モデル、成長可能性、評価について各2項目の計10項目で構成されている（付表1の項目番号1から10まで）。後者は、期待、激励、称賛、親和、相談といった自己成長力に対する情緒的な側面での働きかけを重視した尺度である。質問項目は、各2項目の計10項目であった（付表1の項目番号11から20まで）。いずれの項目も、中学生自身が、教師、父親、母親からどの程度の働きかけ（支援）を受けているのかを、「よくある（4点）」「しばしばある（3点）」「たまにある（2点）」「ない（1点）」の4段階で応答するものであった。

以上の調査は、中学校に調査の実施を依頼し、担任教師を通してクラス単位に実施した。

(3) 得点化

自己成長力検査は、領域（能力・性格・体力）ごとに、関心、意欲、遂行力の各8項目の合計点を算出した。それぞれの得点範囲は、8点から32点であった。

自己成長力への働きかけに関する得点は、領域（能力・性格・体力）ごとに、教師、父親、母親のそれぞれに対して、情報および情緒の各10項目の合計点を求めた（得点範囲は、10点から40点であった）。

表2 能力自己成長力への働きかけ得点の2要因分散分析の結果

		主効果	F 値	多重比較 (p<.05)
教 師	(情報)	学 年	6.47**	1年>2年, 3年>2年
		性	0.35	
		交互作用	2.12	
師	(情緒)	学 年	12.54**	1年>2年, 3年>2年
		性	0.19	
		交互作用	2.32	
父	(情報)	学 年	3.68*	1年>2年
		性	6.64**	男>女
		交互作用	0.67	
親	(情緒)	学 年	4.78**	1年>2年
		性	2.29	
		交互作用	0.17	
母	(情報)	学 年	6.01**	1年>2年, 3年
		性	1.18	
		交互作用	0.30	
親	(情緒)	学 年	6.00**	1年>2年, 3年
		性	3.13	
		交互作用	0.91	

* p<.05 ** p<.01

結果と考察

1. 自己成長力への働きかけの学年差および性差

(1) 能力自己成長力について

表1は、能力自己成長力への働きかけ得点の平均値および標準偏差値を示したものである。また、学年(3)×性(2)の2要因分散分析を行い、働きかけ得点の学

資 料

表3 性格自己成長力への働きかけ得点の平均値（上段）および標準偏差値（下段）

	男 子						女 子					
	教 師		父 親		母 親		教 師		父 親		母 親	
	情報	情緒	情報	情緒	情報	情緒	情報	情緒	情報	情緒	情報	情緒
中学1年生	25.37	25.33	21.10	22.78	23.03	25.23	21.96	22.87	19.12	21.53	23.39	25.69
	8.06	8.24	8.51	8.53	8.21	8.69	9.24	9.52	8.25	8.93	8.57	9.38
中学2年生	18.06	17.61	17.27	18.36	18.14	18.78	17.71	19.09	17.23	18.96	21.04	22.91
	7.57	7.63	7.21	7.50	6.93	7.42	7.27	8.38	7.35	8.16	7.57	9.19
中学3年生	18.87	20.03	18.51	20.17	19.77	21.79	17.62	18.36	18.22	19.12	19.88	21.80
	7.65	8.14	7.80	8.17	8.26	9.14	7.44	8.16	8.46	8.45	8.38	9.32

表4 性格自己成長力への働きかけ得点の2要因分散分析の結果

		主効果	F 値	多重比較 (p<.05)
教 師	(情報)	学 年	28.86**	1年>2年, 3年
		性	5.63*	男>女
		交互作用	1.59	
父 親	(情緒)	学 年	23.57**	1年>2年, 3年
		性	1.70	
		交互作用	2.38	
母 親	(情報)	学 年	5.60**	1年>2年
		性	1.20	
		交互作用	0.72	
教 師	(情緒)	学 年	7.87**	1年>2年, 3年
		性	0.68	
		交互作用	0.57	
父 親	(情報)	学 年	10.92**	1年>2年, 3年
		性	2.12	
		交互作用	1.45	
母 親	(情緒)	学 年	12.78**	1年>2年, 3年
		性	3.02	
		交互作用	2.47	

* p<.05 ** p<.01

年差および性差を検定した。得られた分散分析と多重比較の結果を要約して示したのが表2である。

これらの結果によると、いずれの変数も学年差が有意に認められ、中学1年生の働きかけ得点は、2年生や3年生と比較して有意に高い値を示した。つまり、中学生の中でも低学年である1年生の方が、彼らの能力自己成長力を高める教師、父親、母親からの働きかけ（情報、情緒）が高いと認知していることが明らかとなった。ま

た、父親の情報については、男子の方が女子よりも有意に高く、性差が認められた。男子は女子と比較して、父親からの情報を強く認知していたと考えられる。

(2) 性格自己成長力について

表3は性格自己成長力への働きかけ得点の平均値と標準偏差値を、表4は先述した方法と同様の2要因分散分析と多重比較の結果を示したものである。

これらの分析によると、いずれの変数とも学年差が有意に認められ、中学1年生の得点は、2年生や3年生よりも有意に高かった。この結果は、能力自己成長力への働きかけと同じであり、教師、父親、母親からの働きかけ（情報、情緒）は、中学1年生の方が強く認知していたと考えられる。性差については、教師の情報において認められ、男子の方が女子よりも有意に高い得点を示した。

(3) 体力自己成長力について

表5および表6には、体力自己成長力への働きかけ得点と2要因分散分析の結果が示されている。

その結果、能力および性格自己成長力への働きかけと同様に、いずれの変数とも中学1年生が2年生や3年生よりも有意に高い得点を示し、学年差が認められた。また、父親の情報および母親の情緒に関しては、性差が認められ、男子が女子よりも有意に高かった。

以上、中学生の自己成長力への働きかけについて学年および性差を検討してきたが、中学1年生は2年生や3年生と比較して、教師、父親、母親から情報ならびに情緒的な働きかけ（支援）を強く受けていると認知していることが明らかになったと言える。そして、この結果は、それぞれの自己成長力（能力、性格、体力）への働きかけに共通するものであった。性差に関しては、部分的には認められるが、全体的には顕著な性差は見られな

表5 体力自己成長力への働きかけ得点の平均値（上段）および標準偏差値（下段）

	男 子						女 子					
	教 師		父 親		母 親		教 師		父 親		母 親	
	情報	情緒	情報	情緒	情報	情緒	情報	情緒	情報	情緒	情報	情緒
中学1年生	23.96	23.07	25.15	24.37	24.31	25.11	21.79	20.74	21.83	23.14	24.17	25.97
	8.04	8.38	9.04	8.42	8.04	8.08	8.65	9.19	8.81	9.31	8.68	9.13
中学2年生	18.17	16.30	20.00	19.20	19.71	19.57	19.64	18.58	19.90	20.80	21.97	24.68
	7.05	6.77	8.48	8.05	7.81	7.69	8.17	7.94	8.76	8.62	8.46	9.27
中学3年生	19.91	18.42	21.69	21.19	20.90	21.94	17.59	16.89	19.01	20.33	19.98	21.90
	8.47	8.11	8.78	8.57	8.38	8.61	8.48	7.71	9.56	8.66	9.32	9.37

表6 体力自己成長力への働きかけ得点の2要因分散分析の結果

		主効果	F 値	多重比較 (p<.05)
教 師	(情報)	学 年	14.34**	1年>2年, 3年
		性	2.22	
		交互作用	2.69	
父 親	(情緒)	学 年	16.97**	1年>2年, 3年
		性	0.71	
		交互作用	3.62*	
母 親	(情報)	学 年	8.31**	1年>2年, 3年
		性	6.84**	男子>女子
		交互作用	1.41	
教 師	(情緒)	学 年	9.17**	1年>2年, 3年
		性	0.08	
		交互作用	1.24	
父 親	(情報)	学 年	10.41**	1年>2年, 3年
		性	0.18	
		交互作用	1.50	
母 親	(情緒)	学 年	9.52**	1年>2年, 3年
		性	5.58*	男子>女子
		交互作用	3.90*	

* p<.05 ** p<.01

いように思われる。

2. 自己成長力への働きかけの領域と種類による差異

ここでは、教師・父親・母親の自己成長力への働きかけにおける個人内の特徴を明らかにするために、能力・性格・体力の3領域間および情動的支援・情緒的支援の種類間における差異を中心に、性別、学年ごとに検

討する。

(1) 働きかけの領域間における差異

〔性別〕

最初に、教師・父親・母親による自己成長力への働きかけは、能力・性格・体力の3領域において違いが認められるのかを、性別にみていくことにする。図1は男子の自己成長力への働きかけ（支援度）の認知を、図2は女子のそれをグラフ化したものである。いずれも、3つの領域（能力、性格、体力）の支援度得点に関して、担い手、支援の種類別に分けて示されている。

表7は、能力・性格・体力の3領域の支援度得点の分散分析と多重比較の結果を、性別に分けて示したものである。男女とも、各担い手の支援度得点は、情動的支援・情緒的支援のいずれも、領域間で統計的に有意な差が認められた。以下、多重比較の結果を要約的に記述する。

教師の情動的支援は、男女とも、性格・体力の領域よりも、能力領域の方が顕著に多い。また、教師の情緒的支援も、能力領域が最も多く、以下性格、体力の順となっている。

父親では、男女共通して、性格領域と比較して体力および能力領域の情動的・情緒的支援が多い。なお、情報・情緒いずれの支援も、体力と能力の間には有意差がみられない。

母親の情緒的支援は、男女ともに、体力や性格の領域に比べて、能力領域の支援度得点が高い。また、母親からの男子への情動的支援は3領域間で差がみられ、能力、体力、性格の順に支援度得点が低くなっている。女子の場合には、体力と性格との領域間に差がみられない。

〔学年別〕

次に、自己成長力への働きかけの対象領域（能力・性格・体力）における違いを、学年ごとに検討していくこと

資 料

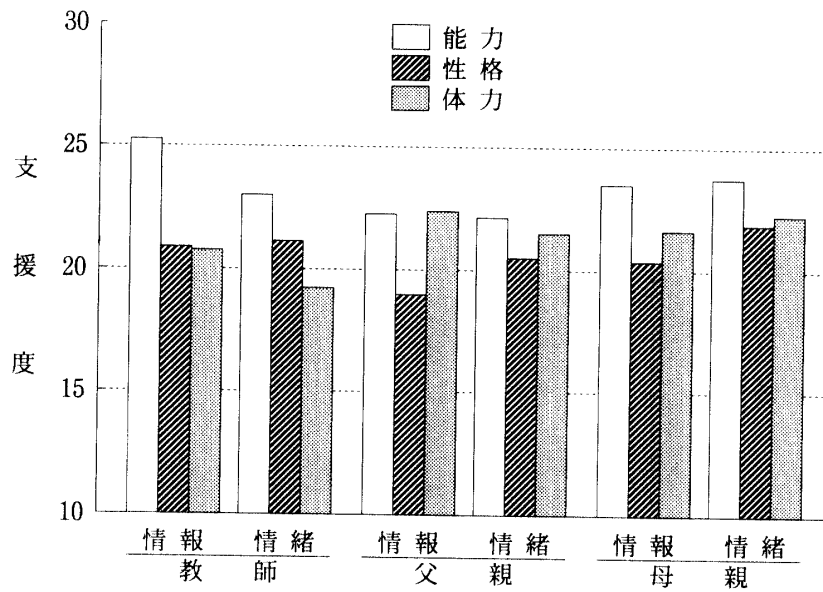


図1 自己成長力への働きかけ (男子)

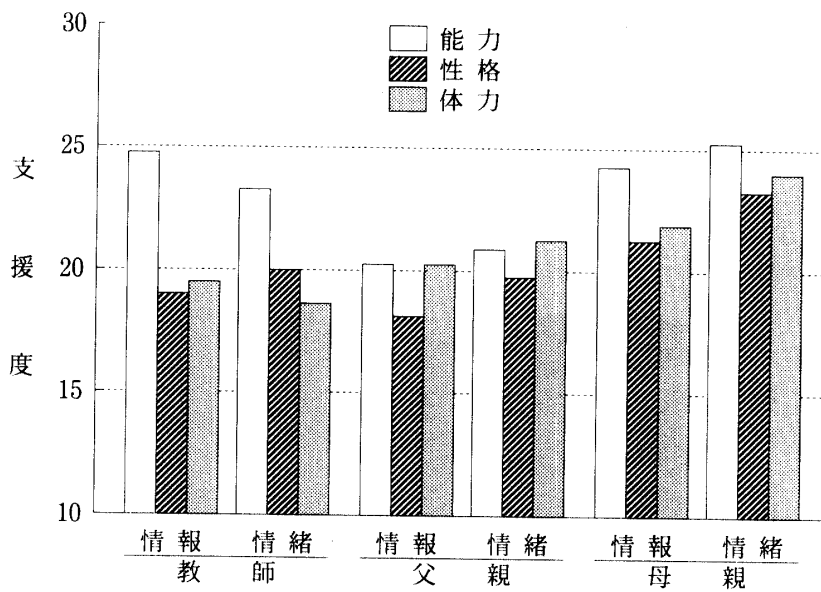


図2 自己成長力への働きかけ (女子)

表7 領域間の分散分析結果と多重比較 (性別)

担い手	種類	男 子		女 子	
		F 値	多重比較 (p<.05)	F 値	多重比較 (p<.05)
教師	情報支援	72.26***	能力>性格, 体力	93.99***	能力>性格, 体力
	情緒支援	55.85***	能力>性格>体力	63.12***	能力>性格>体力
父親	情報支援	45.14***	体力, 能力>性格	19.37***	能力, 体力>性格
	情緒支援	15.64***	能力, 体力>性格	10.67***	体力, 能力>性格
母親	情報支援	33.93***	能力>体力>性格	27.79***	能力>体力, 性格
	情緒支援	16.27***	能力>体力, 性格	10.11***	能力>体力, 性格

*** p<.001

自己成長への働きかけに関する研究

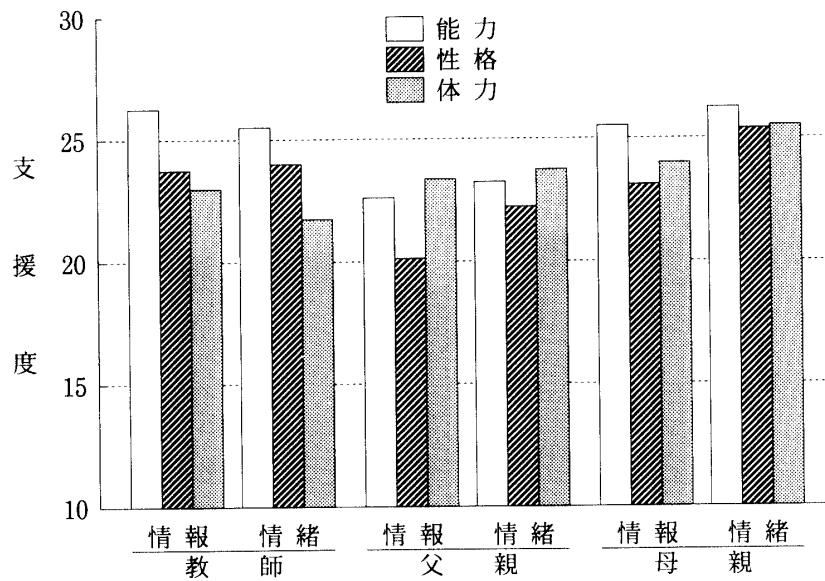


図3 自己成長力への働きかけ（1年）

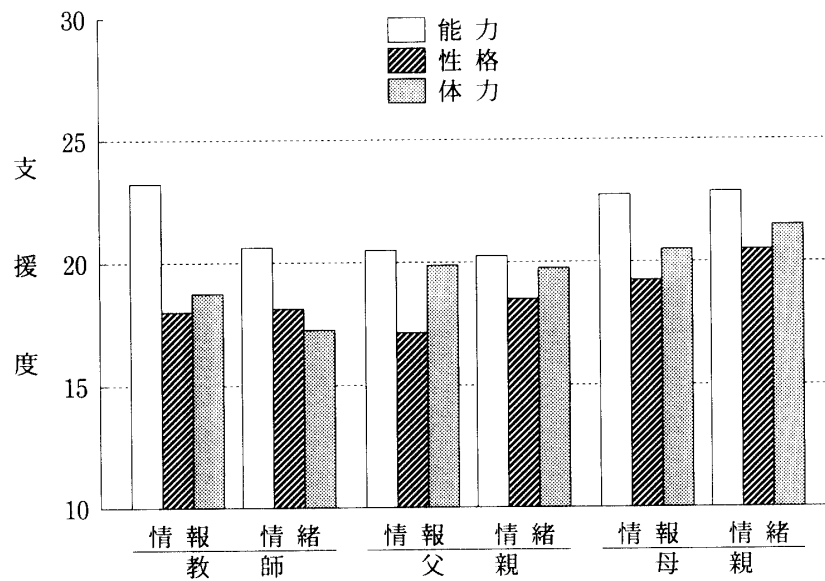


図4 自己成長力への働きかけ（2年）

表8 領域間の分散分析結果と多重比較（学年別）

担い手	種類	1年		2年		3年	
		F 値	多重比較 (p<.05)	F 値	多重比較 (p<.05)	F 値	多重比較 (p<.05)
教師	情報支援	24.54***	能力>性格, 体力	52.93***	能力>体力, 性格	114.21***	能力>体力, 性格
	情緒支援	33.53***	能力>性格>体力	32.17***	能力>性格, 体力	55.45***	能力>性格>体力
父親	情報支援	26.47***	体力, 能力>性格	24.37***	能力, 体力>性格	16.01***	能力, 体力>性格
	情緒支援	8.47***	体力>性格	9.10***	能力, 体力>性格	9.98***	能力, 体力>性格
母親	情報支援	13.21***	能力>体力, 性格	26.37***	能力>体力>性格	24.28***	能力>体力, 性格
	情緒支援	1.50***		13.89***	能力>体力, 性格	15.09***	能力>体力, 性格

*** p<.001

資 料

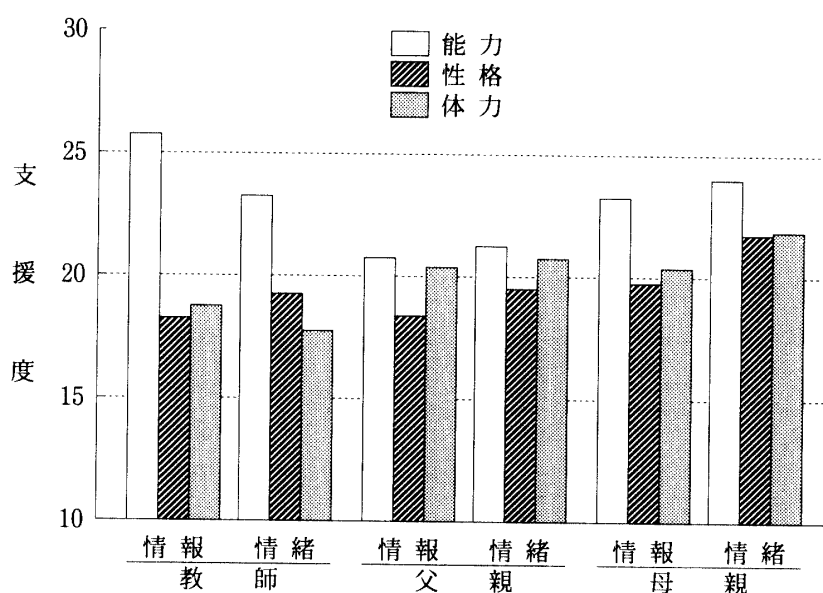


図5 自己成長力への働きかけ（3年）

にする。図3～図5は、自己成長力への働きかけ（支援度）の認知を、学年ごとにグラフ化したものである。

表8は、自己成長力への支援度得点の分散分析と多重比較の結果を、学年ごとに示したものである。1年生における母親の情緒的支援には領域差が認められなかったが、それ以外はすべて、領域間に有意な差が認められた。以下、学年ごとにみた多重比較の主な結果を要約的に列記する。

教師の情動的支援は、どの学年においても、性格・体力の領域と比べると、能力領域の支援度得点が高い。特に、3年生では能力と性格・体力との間の差の開きがかなり大きいことが注目される。また、教師の情緒的支援も、能力領域が多く、以下性格、体力の順となっている。

父親の情動的支援は、いずれの学年においても、性格領域よりも体力と能力領域の得点が高くなっている。一方、情緒的支援は、1年生では体力と性格領域との間のみ差がみられ、性格よりも体力への支援度得点が高い。2・3年生では、性格と比較して能力・体力領域への支援度得点が高くなっている。

母親の情動的支援は、いずれの学年も、体力や性格と比べると能力領域の得点が高い。また、情緒的支援は、1年生では領域差が認められなかったが、2・3年生では能力領域と比較すると体力や性格領域への支援度得点が低くなっている。

(2) 働きかけの種類による差異

教師・父親・母親による自己成長力への働きかけは、能力・性格・体力の3領域ごとに、情動的支援と情緒的支援の2つの尺度で構成されている。そこで、この2種

類の支援の間にはどのような違いがあるのかを、性別、そして学年ごとに分析していくことにする。

〔性別〕

表9は、能力・性格・体力の3領域における担い手の情動的支援と情緒的支援との平均得点の差のt検定結果を、性別に分けて示したものである。以下、同表をもとに、主な結果を列記することにする。

能力領域では、男女共通して、教師は情緒的支援より情動的支援の方が多い。これに対して、父親・母親は男子では差が認められなかったが、女子では情動的支援より、むしろ情緒的支援の方が多い。

性格領域に関しては、男子では教師の支援種類に有意差がみられなかったが、これを除けば男女とも、情報よりも情緒的支援の方が多くなっている。

体力領域では、教師は男女とも、情緒的支援より情動的支援の方が多い。これに対して、父親の場合は男子では差が認められなかったが、女子では情動的支援より情緒的支援の方が多い。母親の場合には、性格領域と同様に、男女共通して、情報よりも情緒的支援の方が多くなっている。

〔学年別〕

表10は、表9と同様に、働きかけの種類に関するt検定の結果を、学年ごとに示したものである。主な結果を次に列記する。

能力領域では、いずれの学年においても、父親・母親による支援の種類間に有意差がみられない。これに対して、教師は、いずれの学年でも、情緒的支援より情動的支援の方が多い。

性格領域に関しては、1・2年生では教師の支援種類

自己成長への働きかけに関する研究

表9 働きかけの種類による差異（性別）

領域	担い手	男 子		女 子	
		t 値	情報 vs 情緒	t 値	情報 vs 情緒
能力	教師	7.36***	情報>情緒	4.51***	情報>情緒
	父親	-.04		-2.26*	情報<情緒
	母親	-.78		-2.38*	情報<情緒
性格	教師	-.89		-3.48***	情報<情緒
	父親	-5.12***	情報<情緒	-5.70***	情報<情緒
	母親	-5.58***	情報<情緒	-6.35***	情報<情緒
体力	教師	4.29***	情報>情緒	2.68**	情報>情緒
	父親	1.62		-3.85***	情報<情緒
	母親	-2.07*	情報<情緒	-6.01***	情報<情緒

* p<.05, ** p<.01, *** p<.001

表10 働きかけの種類による差異（学年別）

領域	担い手	1 年		2 年		3 年	
		t 値	情報 vs 情緒	t 値	情報 vs 情緒	t 値	情報 vs 情緒
能力	教師	2.20*	情報>情緒	6.19***	情報>情緒	6.15***	情報>情緒
	父親	-1.30		.16		-1.45	
	母親	-1.33		-.52		-1.87	
性格	教師	-1.32		-.84		-2.88**	情報<情緒
	父親	-5.89***	情報<情緒	-4.01***	情報<情緒	-3.44***	情報<情緒
	母親	-5.96***	情報<情緒	-3.49***	情報<情緒	-5.15***	情報<情緒
体力	教師	2.28*	情報>情緒	3.67***	情報>情緒	2.67**	情報>情緒
	父親	-.47		.09		-1.23	
	母親	-3.49***	情報<情緒	-2.51**	情報<情緒	-3.61***	情報<情緒

* p<.05, ** p<.01, *** p<.001

に有意差がみられなかったが、これ以外ほどの学年も、情緒的支援の方が多い。

体力領域では、各学年共通して、教師は情動的支援の方が多くに対して、母親は情緒的支援の方が多くになっている。父親では、情報と情緒との間に差は認められない。

さて、自己成長力の働きかけにおける個人内の差異に着目して種々分析してきたが、これまでの結果を総合化すると、中学生の自己成長力への働きかけは、必ずしもバランスの取れたものではなく、働きかける人（担い手）によっても偏りが大きいと言えよう。特に、教師は、性格、体力の自己成長力の育成に関して、働きかけの不足が示唆されている。これからの学校教育では、学習能力の伸長に止まらず、望ましい性格の育成や体力の増進と

いうことについても、積極的な働きかけが必要であると言える。また、家庭における子どもへの働きかけでは母親の支援の方が多くなっていたが、父親からの積極的な情動的・情緒的支援が期待される。

3. 働きかけと自己成長力との関係

これまでみてきた自己成長力への働きかけが、中学生自身の自己成長力とどのような関係にあるのかを検討してみよう。表11は、教師・父親・母親による自己成長力への働きかけと、中学生自身の自己成長力との相関係数を示したものである。注目される結果を次に列挙してみよう。

いずれの働きかけも、自己成長力の各側面とプラス相関が認められる。すなわち、自己成長力への支援が多い

資 料

表11 働きかけと自己成長力との相関係数

		全 体			男 子			女 子			1 年			2 年			3 年			
		関心	意欲	遂行力	関心	意欲	遂行力	関心	意欲	遂行力	関心	意欲	遂行力	関心	意欲	遂行力	関心	意欲	遂行力	
能力領域	情報支援	教師	.289	.266	.286	.274	.233	.206	.305	.299	.371	.317	.286	.350	.248	.184	.260	.258	.264	.208
		父親	.229	.182	.326	.204	.163	.287	.264	.199	.360	.340	.278	.451	.144	.020	.215	.221	.206	.293
		母親	.274	.226	.308	.231	.169	.287	.264	.199	.360	.227	.229	.323	.376	.229	.290	.265	.207	.295
	情緒支援	教師	.295	.261	.277	.277	.220	.204	.315	.304	.361	.308	.246	.373	.249	.188	.251	.305	.286	.167
		父親	.277	.214	.336	.241	.177	.318	.319	.252	.350	.288	.177	.389	.287	.170	.333	.271	.258	.275
		母親	.309	.252	.289	.253	.192	.239	.362	.319	.357	.271	.212	.325	.374	.252	.310	.310	.270	.225
性格領域	情報支援	教師	.244	.287	.329	.307	.373	.343	.228	.239	.322	.256	.287	.369	.258	.260	.288	.262	.302	.289
		父親	.272	.246	.375	.279	.266	.355	.292	.254	.402	.308	.201	.355	.193	.176	.287	.294	.320	.443
		母親	.360	.324	.383	.350	.330	.389	.363	.310	.374	.366	.272	.373	.368	.317	.308	.366	.365	.423
	情緒支援	教師	.275	.303	.348	.275	.354	.342	.309	.280	.359	.287	.285	.365	.239	.284	.334	.324	.335	.320
		父親	.303	.282	.361	.274	.299	.344	.354	.291	.382	.329	.202	.325	.232	.279	.335	.330	.351	.396
		母親	.350	.314	.357	.283	.302	.350	.402	.313	.364	.320	.183	.317	.351	.384	.315	.382	.366	.400
体力領域	情報支援	教師	.369	.321	.360	.330	.269	.273	.399	.358	.442	.282	.239	.311	.286	.264	.224	.469	.378	.434
		父親	.397	.343	.405	.336	.270	.317	.437	.388	.471	.316	.259	.326	.317	.266	.305	.493	.428	.498
		母親	.374	.327	.368	.335	.278	.296	.437	.388	.478	.256	.227	.325	.341	.298	.261	.462	.381	.424
	情緒支援	教師	.317	.278	.286	.280	.201	.197	.351	.347	.379	.230	.169	.238	.182	.203	.108	.457	.374	.385
		父親	.365	.306	.303	.304	.227	.211	.429	.387	.416	.325	.246	.287	.251	.224	.174	.449	.373	.359
		母親	.337	.297	.264	.315	.260	.223	.399	.379	.381	.268	.250	.279	.229	.188	.096	.442	.378	.319

ほど、自己成長力も高い傾向が示されている。

能力領域に関しては、関心・意欲では教師・母親の影響力が強く、遂行力では父親の影響力が強い傾向がうかがわれる。また、父母では情動的支援よりも、情緒的支援の影響の方がやや大きい。

性格領域に関しては、教師・父親よりも母親の影響力が大きい。教師は情緒的支援の方が、母親は情動的支援の方が自己成長力と関連性が強い傾向がみられる。

体力領域に関しては、父親の影響力が大きい。また、全般的に、情緒的支援よりも、情動的支援の影響が大きく、相対的には関心との関係がやや強い。

性別みると、男子より女子の方が、能力および体力領域で働きかけの影響を受けやすい。

学年別にみると、体力領域は、いずれの担い手も1・2年生と比べると3年生で最も相関係数の値が高い。とりわけ、関心の側面と関連が強くなっている。

先の研究(速水ほか, 1994)によれば、自己成長力への関心・意欲は高く持てても、実際に努力しているといった遂行力は乏しい傾向が示されていた。本結果からも明らかのように、自己成長力への働きかけは、関心や意欲の側面だけではなく、遂行力の側面にも影響している。特に、能力および体力の遂行力は、父親の働きかけの影

響を受けやすい傾向が認められた。したがって、青少年の自己成長力を、関心・意欲から、さらに実際の行動へとステップ・アップさせるためにも、教師・父親・母親からのバランスの取れた適切な働きかけが肝要であると言える。

討 論

本論文では自己成長力への働きかけの認知に関して独自の概念構成をして、測定尺度を作成し、中学生のその認知の実態を検討した。

第1に指摘できるのは中学生でも1年生が2、3年生に比べて教師や親からの働きかけを強く認知していたことである。周囲からの情報支援や情緒支援が大きいほど青少年の自己成長力が高まることが想定されており、現実には最後の相関分析でも両者に深い関係があることが示された。しかし、この結果は、速水・西田・坂柳(1994)の発達の検討で、概して中学生は学年が上がるに自己成長力も高まる傾向が認められたという事実とは矛盾するようにも思われる。つまり、自己成長力の高い高学年の方が周りから働きかけが低いと考えられるからである。この点に関しては、発達段階によって最適な支援のレベルが異なるものと考えている。すなわち、発達

に伴って自律性がたかまるにつれて周囲からの自己成長への働きかけはある程度漸次弱められていく方が望ましいと思われる。自己成長力を育成するには放置しておけばよいというものでなく、まずはそれを引き出すための働きかけが必要であるが、本人の中に自己成長力が形成されれば今度は働きかけが過剰にならないようにすることも肝要であろう。しかし、この考えが正しいかどうかはもっと精密な分析を必要とする。

第2に問題とされるのは領域別にみると能力自己成長力への働きかけが性格自己成長力や体力自己成長力へのそれに比して極めて高いことである。これは先の研究で指摘された自己成長力そのものが能力領域で高いことと符合する結果ではあるが、逆にいえば、性格や体力の自己成長力の育成が軽視されていることである。青少年が自ら性格や体力を高めようという姿勢は能力を高めようとする姿勢と同様に大切なことと考えられる。しかし、現在では主に学習能力の評価によって青年の将来が規定されるという社会システムが存在し、偏った働きかけがなされているものと思われる。しかし、現在、学校で問題になっている「いじめ」や「不登校」等も大人たちのこのようなアンバランスな働きかけに一因があるものと思われる。

第3には特に教師の働きかけでは情動的支援と情緒的支援の差異が大きかったことが注目される。つまり、教師は「こうするのが望ましい」という情動的支援が多いが青年の内面を支える情緒的支援は少ないのである。しかし、情動的支援は情緒的支援に支えられて真価を発揮するものであるように思われる。たとえば、能力自己成長力に関して勉強の仕方などについての教示は大いに役立ちそうであるが、それは教師と青年の間に密接な人間

関係、感情関係が成立していることが前提と考えられる。その点で、現在の教師は青少年への情緒的支援をやや怠っているように思われる。教師が裸で自分を語り、青年を共感的に理解しようとしないう限り、情緒的支援は生じないであろう。

第4は父親の働きかけがもっとなされるべきではないかという示唆が得られた点である。父親は支援の強さからいえば、最も低いことが本研究から示されたが、他方、自己成長力との関係では特に遂行力で支援との関係が教師や母親における関係よりも強い場合が多いことが示された。遂行力とは関心や意欲といった意識レベルのものでなく、具体的な自己成長するため努力を意味するのでとりわけ重要に思われる。つまり、父親の実質的な影響力が大きいことが推察され、もし、父親の働きかけが全体的にもっと高いと子どもの自己成長力が高くなるのが期待されるのである。しかし、概して父親は仕事を大義名分にして子どもへの支援を怠りがちであると感じられる。

引用文献

- 速水敏彦・西田 保・坂柳恒夫 1994 自己成長力に関する研究 名古屋大学教育学部紀要—教育心理学科— 41巻, 9-19.
- 速水敏彦・西田 保・坂柳恒夫 1995 自己成長力を育む 祖父江孝男・梶田正巳編著 日本の教育力 金子書房 51-75.

(1995年9月13日 受稿)

ABSTRACT

Support for Self-Growth Motivation

Toshihiko HAYAMIZU, Tamotsu NISHIDA, and Tsuneo SAKAYANAGI

So far we have investigated the realities of self-growth motivation of Japanese adolescents. Self-growth motivation was assumed to consist of three domains: mental ability, character and physical fitness. In the present study, we had the questions as follows. To what extent do adolescents perceive to accept adults' support for self-growth motivation? Does the strength of their perceived supports actually reflect on increasing their self-growth motivation? In order to examine these questions, first of all, it was conceptualized that there were two kinds of support: informational and affective supports, and that such supports were given adolescents by three significant persons who were the agents of socialization: teacher, father and mother.

Based on this conceptualization, a new scale to measure students' perception of adults' support for self-growth motivation were constructed. As well as self-growth motivation, the support for self-growth motivation consisted of three domains. Ten items were included in each subcale to measure one kind of support from a significant person in a domain. Not only this scale but also the scale measuring self-growth motivation were administered to 492 junior high school students (in grades 7 through 9) at the same time. They were asked to rate on four-point scales.

Main results were follows: (1) Seventh graders perceived to accept more support for self-growth motivation than did any other graders; (2) Students perceived to be supported greatly for self-growth motivation of mental ability from every agents whereas they did to be supported feebly for self-growth motivation of character and physical fitness; (3) In the domain of mental ability, informational support from teachers was perceived to be more dominant comparing with affective support; (4) Most of all the correlations between students' self-growth motivation and their perceived support for it were significantly positive; (5) Although students' perceptions of support from their fathers were generally weak, the relationships between those and students' self-growth motivation were more closely than we expected.

自己成長への働きかけに関する研究

付表 1 (能力自己成長への働きかけ)

あなたの担任の先生や両親は、あなたの能力(例えば、計算する能力、記憶する能力、読んで理解する能力、ものごとを考える能力など)を伸ばすことに対して、どのような態度を示してくれていますか?

以下の項目を読んで、ぴったりあてはまる数字を、先生、父親、母親に分けて○でかこんでください(父親、母親のいない人は、記入する必要はありません)。

	な い ↓	た ま に あ る ↓	し ば し ば あ る ↓	よ く あ る ↓
1. 能力を高めることが、日頃の生活にどのように役立つのか教えてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 2 3	2 3 4	3 4 4
2. 能力を高める方法をいろいろ紹介してくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
3. 能力を伸ばす努力をして、手本を示してくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
4. 現在、能力が低くても勉強すれば高くなるといってくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
5. 私の能力のどこを伸ばせばよいか教えてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
6. 能力を高めていくことの大切さを話してくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
7. どうすれば能力を伸ばせるか教えてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
8. 能力を高めることの楽しさを語ってくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
9. がんばればだれもが能力を伸ばすことができるといってくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
10. 私の能力の優れている点を示してくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
11. 私の能力が伸びることを楽しみにしてしてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
12. 私の能力のよい点、悪い点をよくわかっている	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
13. 私が能力を高めるよう励ましてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
14. 自分の能力のことについても親しく話してくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
15. 私の能力のことで相談にのってくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
16. 私の能力のわずかな伸びにも注目してしてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
17. 私が能力のことを尋ねると熱心に聞いてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
18. 私の能力が少し伸びただけでもほめてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
19. 自分の能力を伸ばすのに苦労した体験を語ってくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
20. 能力に不安を感じたとき、悩みを聞いてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3

資 料

(性格自己成長への働きかけ)

あなたの担任の先生や両親は、あなたの性格(例えば、明るい、親切、きちょうめん、まじめ、活発、社交的、正直など)をよりよくすることに対して、どのような態度を示してくれていますか?

以下の項目を読んで、ぴったりあてはまる数字を、先生、父親、母親に分けて○でかこんでください(父親、母親のいない人は、記入する必要はありません)。

	な い ↓	た ま ま に あ る ↓	し ば し ば あ る ↓	よ く あ る ↓
1. 性格をよくすることが、なぜ大切なのか話してくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 2 2	2 3 3	3 4 4
2. 性格をよくするための努力の仕方を教えてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
3. 自分から進んで性格をよくしようとする人は立派であるといってくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
4. だれでも性格をよくすることができるといってくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
5. 私の性格のよいところを、いろいろと教えてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
6. 性格をよくすると親しい友だちができるといってくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
7. いろいろな人と仲良くしていくためには、どうしたらよいのか教えてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
8. よい性格の手本を示してくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
9. 努力すれば、性格がよくなっていくと話してくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
10. 私の性格のなかで、どこを直したらよいかを教えてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
11. 私が努力すれば、よい性格になれると思っていてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
12. 私の性格のいろいろな点をわかっているといってくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
13. 困っている人に親切なことをしたときに、ほめてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
14. 私の性格について話せるように親しくしてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
15. 性格のことで悩んでいるとよく相談にのってくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
16. 私の性格がよくなっていくことを楽しみにしてくれている	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
17. 私の性格のことをたずねると、最後まで熱心に聞いてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
18. 人から好かれるような性格になるように、はげましてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
19. 私の性格のことを話すと、自分のことのように聞いてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
20. 私が性格に不安を感じたときに、よい相談相手になってくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3

自己成長への働きかけに関する研究

(体力自己成長への働きかけ)

あなたの担任の先生や両親は、あなたの体力づくり（例えば、体を健康にする、じょうぶな体にする、たくましい体にする、体力をつけるなど）に対して、どのような態度を示してくれていますか？

以下の項目を読んで、ぴったりあてはまる数字を、先生、父親、母親に分けて○でかこんでください（父親、母親のいない人は、記入する必要はありません）。

	な い ↓	た ま に あ る ↓	し ば し ば あ る ↓	よ く あ る ↓
1. 大人になって活躍するためには、体をじょうぶにすることが大切だと話してくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 2 2	2 3 3	3 4 4
2. どうすればじょうぶな体になれるのかを教えてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
3. 健康に注意して規則正しい生活をして、手本を示してくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
4. 運動したり規則正しい生活をすれば、きっと健康になるといつてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
5. 私の体のどの点が優れているのかを示してくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
6. 体をきたえることがこれからの生活に役に立つといつてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
7. どうすれば能力を伸ばせるか教えてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
8. 運動やスポーツをすることの楽しさを話してくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
9. 頑張れば誰でも体がじょうぶになるといつてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
10. 私の体のどこをきたえたらよいのかを教えてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
11. 私の体が健康になってほしいと願っていつてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
12. 私の体のことを気にいつてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
13. 私が運動していつてつらいことがあると励ましていつてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
14. 私が運動しようとすると一緒にやいつてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
15. 私が健康に不安を感じたとき何でも聞いていつてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
16. 私の体がじょうぶになっていくことを楽しみにいつてくれている	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
17. 私の健康のことを話すと、しんけんに聞いていつてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
18. 私が頑張って運動していつてるとほめていつてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
19. 私の健康のことを話すと、自分のことのように聞いていつてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3
20. 運動の仕方がわからないと相談にのいつてくれる	先生は、 父親は、 母親は、	1 1 1	2 2 2	3 3 3

〈調査は、これで終わりです。ご協力どうもありがとうございました〉